

日本語版 取扱説明書



223/234XL

2-Way/3-Way/4-Way CROSSOVER



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

目次

はじめに.....	4
234XL/223XL リアパネル・オペレーション.....	5
I. モード・スイッチ	5
II. 234XL リアパネル	5
III. 223XL リアパネル.....	6
IV. 234XL/223XL オーディオ接続	6
V. 電源接続.....	6
機能.....	7
I. x10 オペレーション	7
II. 極性スイッチ.....	7
III. 低域波 summing	7
ラックマウント/ grounding and safety	8
おかしいな?と思ったら.	8
I. 故障の場合/音がでない	8
電源が入らない	8
II. オーディオ出力の異常	8
III. 音質が弱い／歪んでいる	9
IV. ハムノイズおよび雑音	9

はじめに

この度は、DBX 社製の 234XL/223XL クロスオーバーをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。234XL/223XL の性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

234XL/223XL リアパネル・オペレーション

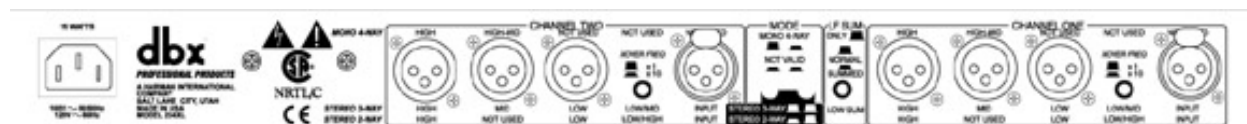
I. モード・スイッチ

バックパネルにあるモード・スイッチで、234XL と 223XL のオペレーション・モードを選択します。クロスオーバーが正しく設定されていなかったり、音を流している間にスイッチを誤って押したりすると、音響システムに支障をきたすおそれがありますので、スイッチをセットする際には十分注意してください。機材の後部にモード・ダイアグラムがあり、一目見てわかるようになっています。下記の操作手順にそってシステムをセットアップしてください。

- スピーカー・システムを設置するにあたり、各メーカーの許容入力等に関するデータを必ずお読みください。234XL/223XL の間違った設置や使い方による損傷については、一切責任を追いかねますのでご了承ください。
- 234XL はステレオ 2 ウェイ/ステレオ 3 ウェイ/モノラル 4 ウェイ、223XL はステレオ 2 ウェイ/モノラル 3 ウェイにセットすることができます。バックパネルのモード・スイッチを使って設定してください。
- スピーカーに付属しているマニュアル等を参考にしてクロスオーバーのモードとクロスオーバー周波帯を設定してください。
- 234XL を使う際、モード・スイッチが 2 つとも押されていると “ NOT VALID ” の表示通り動作しないので気をつけてください。

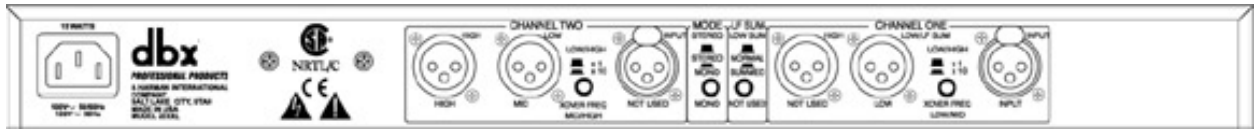
モードの設定が完了しましたら、7 ページの “ 234XL/223XL オーディオ接続 ” を参照しながら機械を接続してください。

II. 234XL リアパネル



アンプや周辺機器を接続する際接続がわかりやすい様にバックパネルに表示がしてあります。234XL をステレオ 3 ウェイで作動させるには、一番上のラインに書いてある表示に従ってください。ステレオ 2 ウェイで作動させるには、2 行目に書いてある表示に従ってください。モノラル 4 ウェイを作動させる時はコネクタの下に表示に従ってください。使わないコネクタは、その部分に “ NOT USED ” と書かれています。

III.223XL リアパネル



223XL のリアパネルも 234XL と同様に表示されています。ステレオ 2 ウェイで使う際はコネクターの上の表示に、またモノラルの 3 ウェイで使う際は、コネクターの下の表示に従ってください。使わないコネクターは、“NOT USED”と表示されています。

IV.234XL/223XL オーディオ接続

- 223XL/234XL クロスオーバーに周辺機器を接続する前に、電源が入っていないことをまず確認してください。
- 223XL/234XL に接続する周辺機器（イコライザー/コンプレッサー/ミキシング・コンソールなど）の電源がオフになっているかどうか必ず確認してください。そしてリアパネルの表示に従って接続する機器の出力をクロスオーバーの入力へ接続してください。
- スピーカーにつなぐアンプの電源がオフになっているかどうか確認してください。そしてリアパネルの表示に従って 223XL/234XL の出力に高質のケーブルを使用してパワーアンプを接続して下さい。

V.電源接続

100V 以外のコンセントに誤って接続されますと損傷のもととなり、保証対象外となりますのでご注意ください。まず電源コードを使ってコンセントに差し込んでください。

クロスオーバーを接続したら周辺機器の電源を入れてください。そしてアンプの出力を下げてからアンプをオンにして下さい。この時点ですべてのサウンド・システムが作動し、アンプのレベルは下げてあります。それから周辺機器のレベルを上げて、234XL/223XL へ信号を送ってください。その後ちょうど良い音量で聞こえるところまでアンプの出力をゆっくりと上げていきます。

機能

I.x10 オペレーション

ステレオ 2 ウェイ/ステレオ 3 ウェイモードにおいて、クロスオーバーの周波数を 960Hz 以上にする必要がある際、X10 スイッチをアクティブに設定します。これで周波帯セレクターの操作範囲が 45Hz-960Hz から 450Hz-9.6kHz に変更されます。その他の周波数のスイッチはそのまま変わりません。X10 スイッチをセットする前に、スピーカー・システムにつないであるアンプの電源がオフになっていること、またパワーアンプの入力ゲイン・コントロールが下がっていることを必ず確認してください。以上を正しく行わないと、X10 スイッチをオンにする時に雑音クロスオーバーの出力に流れてしまい、スピーカー・システムに損傷を与える原因となります。

II.極性スイッチ

フロントパネルに出力の極性変換スイッチが装備されています。スピーカーの位相が狂っている時は周波数の特性が（特に低周波帯において）劣化します。また逆相になっていると、特に高周波帯において音を打ち消してしまう原因になります。極性スイッチを使ってサウンドシステムを最善のレベルに調節してください。出力の極性が変わっている時、LED が点灯します。

III.低域波 summing

バックパネルにあるその他の機能として“低域波 summing”があります。これはモノラルのサブ・ウーハーを使う時に役立ちます。LF SUM をオンすることにより左右の入力の低域音をひとつにすることができます。ひとつにまとめられた低音は“CHANNEL ONE”にある“LF SUM”と表示されている出力へと流れます。この時“CHANNEL TWO”の LOW は使われていません。またチャンネル 2 の位相変換の LED は使用できず、“LF SUM”モードでは作動ないことを表しています。ひとつにまとめられた低域音は、左右すべての入力の低域音を合算したのですが、低音は音の方向性にさほど影響が無い為、ソース音のステレオ感を損ねることはあまりありません。

ラックマウント/ grounding and safety

ラック・マウント用に4本のラックねじとワッシャーが付属しています。大きなトランスやモーターの近くではマウントを避けてください。ACコードはオーディオの配線から離して配置し、電源コンセントに差し込んでください。電源コードとオーディオの配線がクロスする場合は、90度の角度で重なるようにしてください。

入出力コネクタはバランスおよびアンバランスのステレオ・フォンです。ホットはプラス、チップはマイナス、そしてスリーブがアースです。234XL/223XL クロスオーバーはバランス仕様の入出力回路を持っています。アンバランスの機器と接続する場合でも（特に、長いケーブルを通す場合）バランスでの配線をお勧めします。

おかしいな？と思ったら...

I.故障の場合/音がでない

電源が入らない

- フロントパネルのステレオ、またはモノラルLEDが点灯しているかどうか確認してください。
- バックパネルの電源コードが正しく接続されているか、確認してください。

電源は入るが信号が出ない

- 動作しているオーディオの配線がクロスオーバーの入出力に正しく接続されているかどうか確認してください。
- 入出力のゲイン・コントロールを前もって十分に調節してあるかどうか確認してください。
- アンプの出力を上げているかどうか確認してください。

II.オーディオ出力の異常

- セットアップに適切なモードがリアパネルのモード・スイッチで選択されているかどうか確認してください。
- LF SUM スイッチを確認してください。
- X10 スイッチを確認してください。クロスオーバーの周波帯の範囲が 45-960Hz から 450Hz-9.6kHz に変わります。

III. 音質が弱い／歪んでいる

- 入力されているソースがきれいな音で本機に送られているかどうか確認してください。
- 入力が正しく配線されているかどうか確認してください。
- オーディオのシグナル・パスのアースとシャシ、すべてのユニットの電源が接続されているかどうか確認してください。

IV. ハムノイズおよび雑音

グラウンド・ループによるハム・ノイズの場合

- 問題が起きている信号系統上の周辺機器のアースを順番に取り外す、あるいは接続してノイズが無くなるかどうか確認してください。
- 安全の為に、シャシーのアースは接続したままにしておくことを忘れないで下さい。

グラウンド・ループ以外の原因によるハム・ノイズの場合

- 信号系統の流れやケーブルの接続状態を、まず確認してください。
- 低い信号の機器はパワーアンプから離してマウントし、ハム・ノイズが入らないようにしてください。
- スピーカーの配線以外すべての配線が確実にシールドされ、低い信号レベルの配線が AC 電源の配線の近くで平行に設置されていないかどうか確認してください。
- 他の機材や配線を確認して信号がどこかで中断されていないかどうかチェックしてください。
- ケーブル・チェッカー等を使って、すべてのケーブルが正常なものであるか確認してください。